

会員制教育サポート・サービス Premier Edu サポートセンター 帰国準備

2009年4月1日にスタートした Premier Edu サポートセンターでは、米国基本教育情報から日本語維持や帰国後の学校適応に関する対策まで、様々な疑問やお悩みを解消するお手伝いをしています。

一定期間米国に滞在され、そろそろ帰国というご家庭もあれば、保護者の方やご勤務先の事情により、突然帰国が決まったというご家庭もあります。保護者自身の引越しや帰任も大変でしょうが、お子様の編入が加わると帰国の準備はさらに複雑化します。そして、日本の学校に適応しなければならないお子様にも、大きな負担がかかってきます。お子様がスムーズに編入し、日本に適応できるよう、ご不明な点があればお気軽に Premier Edu サポートセンターをご利用ください。

<学校選び>

帰国の際、一番悩むのはお子様の学校選びではないでしょうか。まずは帰国後お住まいになる地域の学校について調べてみることをお勧めします。公立学校も、保護者の方が通っていた頃とは変わり、どの学校でも同じ教育が受けられるという時代ではなくなってきています。学校によって教育施設や教育内容が異なる場合もあります。また、米国滞在期間の長いお子様であれば、日本語が苦手という方も多くいます。完全な日本語環境に飛び込みたいのであれば、公立学校へ編入するのも良いかと思いますが、あまり日本語がわからない、または日本の学校生活に抵抗があるというお子様の場合は、帰国生受入校やインターナショナルスクールへの編入も視野に入れる必要があります。

近年、日本における帰国生が増えている為、帰国生受入校と呼ばれる学校も増えています。しかし、帰国生受入校と言っても、全ての学校が同じように対応してくれるわけではありません。英語で授業をしたり、帰国生が苦手とする科目を国内生とは別に行ってくれる学校もあれば、帰国生に対する特別な配慮は全くなく、国内生と同じ条件で授業を受けなければならないのに、生徒数を確保する為に帰国生受入校と名乗っている学校もあります。その中からお子様の年齢、英語力、日本語力、米国での成績、性格等、様々な事を考慮して、お子様にあった学校を探すのは大変なことです。

<編入準備>

日本へ編入の際、米国の学校で必要な手続きはほとんどありませんが、編入先の日本の学校が何を要求するかを調べる必要があります。公立の小中学校へ編入する場合は、義務教育期間内である為居住する地域の役所に住民登録をすると、特別な手続きなしでも入学通知書が発行され編入可能ですが、私立や国立の小中学校に編入する場合は、編入時期や申請資格、手続き等がそれぞれの学校によって異なるので事前に確認してください。高校生の編入となると準備はさらに大変です。米国での成績や履修教科、TOEFL や TOEIC 等の英語能力テストのスコアを要求される場合が多い上、編入試験や編入時期についても帰国前から確認しておく必要があります。

帰国時期が決まると、いつ頃から編入の準備をしたらいいのか、何から始めたらいいのか、何をしなければいけないのか等、戸惑うことが多いはずです。その上、帰国に関する情報は、現地校の先生やカウンセラーも全くわからないし、周りに聞ける相手もなかなかいないというのが現状です。そのため、インターネットや日本にいるご家族やご友人から情報を集め、手探りで準備をしているという保護者の方が多いようです。

